

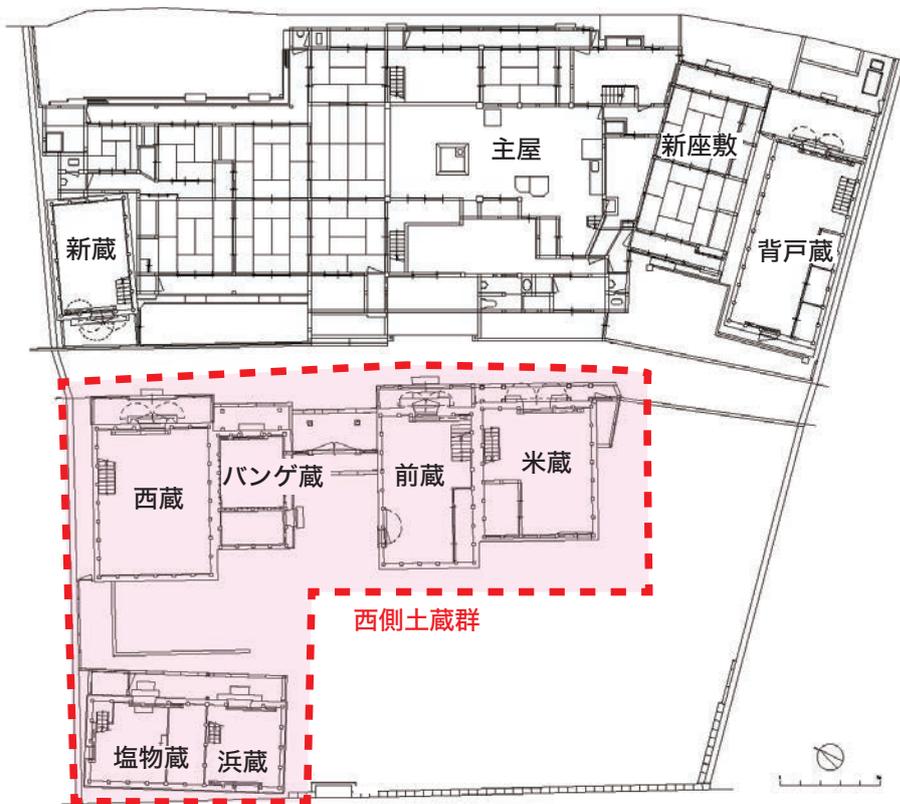
西側土蔵群について

中村家住宅では、旧村道を挟んで西側に6棟の土蔵群が立ち並んでいます。

土蔵群は、旧村道に面して北側から西蔵・バンゲ蔵、正門を挟んで前蔵・米蔵、西蔵・バンゲ蔵の西側に塩物蔵・浜蔵があり、総称して「西側土蔵群」と呼ばれています。

これらの西側土蔵群は、海からの強風にさらされてきたことから、塩害や凍害によって屋根瓦や土壁に傷みがみられます。また、「戸前」と呼ばれる蔵入口前の張り出し部分の屋根から土壁に雨水が入り込み、内側の木部を腐朽させている箇所もありました。

令和4年度から令和6年度までの3年間で、これらの傷んだ箇所を順次修理していく予定です。



コラム①

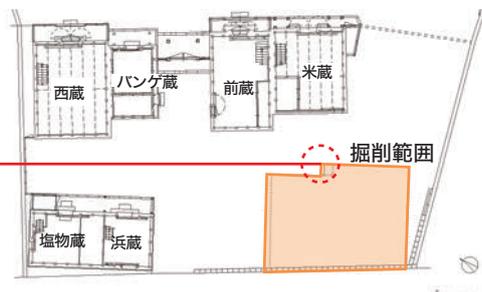


明治19年の地籍図
(着色は現在の敷地範囲)



発見された石垣

防火水槽を設置するため、敷地内を掘削したところ、地下から石垣が発見されました。昔の海岸線を示す貴重な遺構です。



重要文化財

保存修理工事

主屋ほか11棟

中村家住宅

《事業期間》

2018年10月～2025年3月(予定)

ここに主な内容を報告します。

修理工事を行いました。

令和4年度は西側土蔵群6棟の

西藏・バンゲ蔵の修理について

令和4年度は、屋根瓦を降ろして戸前を解体し、建物全体を少し持ち上げる「揚屋」を行ったうえで、傷んだ柱の根元や土台の一部を新しい木材に取り替える木工事と、土壁の一部を解体し、下地から編みなおして壁を塗り替える左官工事を中心に行いました。

西藏の柱には、木目が美しい立派なケヤキ材が使われています。当初の材をできる限り保存し、強度も考えながら新しい木材を取り付ける「継手」の技術は、大工さんの腕の見せ所です。

新しく取り付けた木材には、いつの時代に修理したかを示すために、年代の焼き印を入れています。



大工さんの加工は、木材を取り付けてしまうと外から見えなくなってしまうますが、とても複雑な継手の技術が使われているのです。

新たに取り付けた木材

コラム②



西藏の床板を取り外したところ、裏面に「明治廿四年九月上旬作之」という墨書が見つかりました。また、戸前の木材の木口に「明治廿四年七月作」という墨書もありました。



中村家に伝わる古文書には明治24年に「北土蔵」を新築したという記述があり、この「北土蔵」が西藏のことではないかと考えられます。

前蔵・米蔵の修理について

令和4年度は、屋根瓦を降ろして土壁を一部解体し、傷んだ箇所を確認した後、揚屋を行いました。

前蔵は、正門側の腰壁が、土壁に平瓦を釘打ちし瓦と瓦の隙間に漆喰を盛り上げた「なまこ壁」と呼ばれる仕上げになっています。なまこ壁に使われている平瓦は、潮風の影響か、海側に近い部分に特に傷みが生じていました。

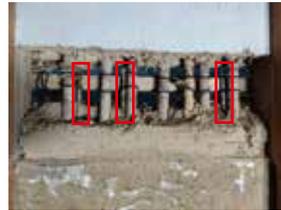
米蔵は、建物の西南隅に虫害がみられ、木材に傷みが生じていました。

来年度は、傷んだ木部や土壁を補修していく予定です。



前蔵のなまこ壁

コラム③



西藏の北側の壁を解体したところ、竹の下地の中に鉄の棒が入っていることがわかりました。防犯のためではないかと考えられます。



製作：公益財団法人 冬青舎 中村家保存会

製作協力：福井県

南越前町

一般財団法人 京都伝統建築技術協会(設計・監理)
有限会社 山本製材(施工)

発行日：令和5年3月

※このリーフレットは国庫補助事業の一環として製作したものです